

環境経営論 2005年度個別感想集

平成17年8月1日 AM
東京外国語大学 担当講師 小野木正人

1. 一番印象的だったこと

- 地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨などの問題はよく聞かすが、その原因や影響はよくわかっていなかったことに気づいた。(5)
- 産業革命でヨーロッパの森林が破壊され、今は人工林が多いということ。(4)
- 人工林が環境を破壊していること。
- 偏西風が、ヨーロッパ諸国の環境に対する取組みを強めるきっかけになっているということ。(3)
- 日本人の過剰包装とゴミの多さ。(8)新鮮さにはうるさいのに包装のことは気にかけない。
- オゾン層の破壊が、トノサマガエルの絶滅など人体以外の生態系にも影響を与えていること。(5)
- 「環境後進国」としての日本の姿。(6)
- 環境問題への対応は、子孫にどんな世界を残すかを問われていることだということ。

2. 得たもの、気づき

- 汚染物質が東へ流れていくと言う事実。中国の経済発展が日本の環境にも影響を与える可能性があることに気づいた。(5)
- 日本は過剰包装だと思うが、自分が海外で包装されていない野菜や果物を見た時には、衛生面での疑問を持った覚えがある。考え方から変えていくことが必要。(2)
- 国の環境対策には利害も絡んでいるということ。
- 基本原則の4R。リサイクルは最終手段であることをもっと認識したい。(11)
- 地球規模の環境問題と、地域・都市規模の環境問題の違い。

3. その他の感想

- ISOの取得は難しそうで、生協が難色を示したわけがわかった。
- 就職活動をするときも、環境に対する配慮をしているかという視点から就職先を選ぼうと思う。
- 外大祭で出るプラスチックゴミの多さを考え、環境に負担をかけているのだと思った。
- ISOの認証取得が約1年でできるということ。もっとかかると思っていた。
- 産業は絶対に環境に悪影響を与えるが、それを抑えることが大切だ。これからも対策を勉強してゆきたい。
- 過剰包装が当たり前になっている。それを当然のサービスとして販売側に要求する消費者にも問題がある。
- 面白そうな先生でよかった。授業にも興味が持てそうだ。